■「モヤシ林」といわれるやせた森林の様子

そして、現在、山林・森林は、環境問題を考えるうえでも重要な自然資源として注目されています。森林を広げ、二酸化炭素の吸収量を増加させることで、地球温暖化防止に大きく貢献するものだと確認されているのです。

しかし、こうした役立つ山林は「人の手」が入ってはじめて環境貢献できるものになるのであり、本市の山林の状況は必ずしもこうした「良い」状況ばかりではありません。

本市に見られるような、間伐をされていない森林は、いわゆる「モヤシ林」といわれ、樹木自体が細く、混みあっているため、木に「木材」としての価値がほとんどありません。また、枝が混んで光が地面まで届かないため、下草が生えずに土地がやせ、地滑りなどの大きな自然災害を引き起こす危険性をはらんでいるともいわれています。

こうした状況を防ぐためには、人の力による「森づくり」が必要です。昔は、里に近い山々は「里山」と呼ばれ、薪や食材の調達など、私たちの生活に密着した場所でした。このように、森林に人の手を入れ、整備することは、より良い生活環境を生み出すことにつながるのです。

■大気

大気は、私たちの一番身近にある資源であり、本市は山林面積が多いため、市外から訪れる多くの方に「空気がおいしい」といわれます。しかしながら、昨年一年間では、都留市近郊に「光化学スモッグ注意報」が二回発令されており、大気汚染が身近な課題となりつつあることも事実です。

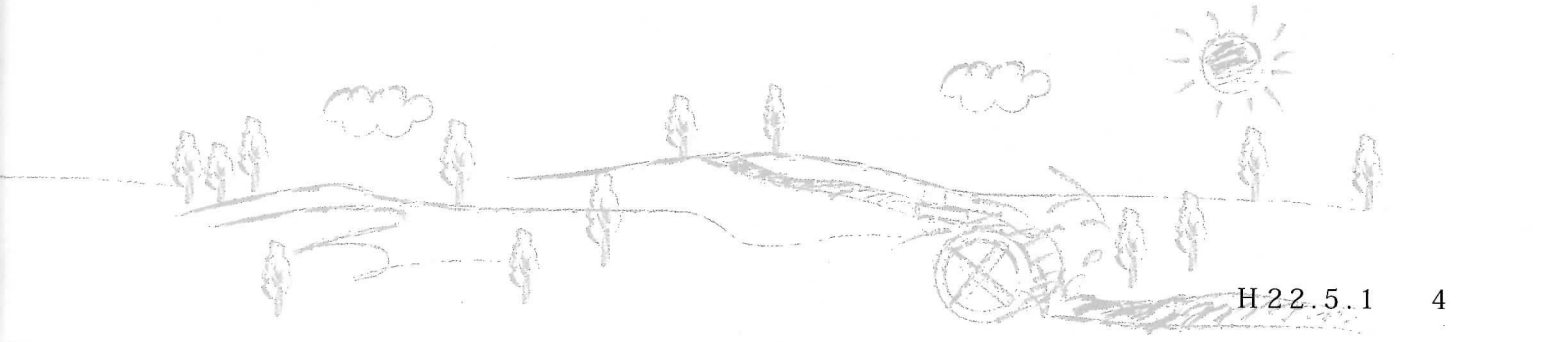
また、近年は地球温暖化問題が大きく取り上げられており、二酸化炭素の排出削減が国内での喫緊の課題となっています。

■大きな課題、ゴミの不法投棄

このような自然資源を守っていくうえで、大きな問題となっているのが、ゴミの不法投棄です。本市においては、この問題が一番の課題と言えます。

市では、環境パトロールや看板による広報など、投棄防止活動の展開を行い、また、市民の方々には定式や、自治会単位での大規模な河川清掃活動などを積極的に展開していただいてますが、ゴミはなかなか減少していない状況です。

本市を流れる河川はそのほとんどが急流のため、川にゴミを落とせば目の前から瞬く間に消えてなくなります。しかし、そのゴミは消えたわけではありません。下流では、多くのゴミが溜まり、環境悪化につながります。また、これらの河川は、相模湖へ注いでいるため、こうした下流域で暮らす方々にとってゴミの投棄は、生活環境の悪化につながる大きな問題となっています。

まちなかを流れる家中川では、昨年

■河川に投棄された缶類など